

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

今、世界で起きている、起きようとしている「変化の本質」とは何か

小林 喜光 (三菱ケミカルホールディングス会長)

1. 今、世界で起きている、また起きようとしている「変化の本質」とは何だろう。蒸気機関しかり、自動車しかり、人類は手や足を使う行為を機械に代替させ、産業を発展させてきた、歴史はほぼ一巡し、今、人間の脳の機能さえAI（人工知能）や量子コンピューターに「外部化」する時代が幕開けた。外部委託先の知能が人類を上回るのほはや時間の問題で、シンギュラリティ（技術的特異点）は間違いなく起こる。さらには、精神や心を持った量子AIが誕生するかもしれない。
2. 総合科学技術・イノベーション会議のとりまとめにかかわった身として言いたいのは、今の世界と社会がテクノロジーで劇的に変わること。そして、革新性とは裏腹に、人類にとって残酷さえも潜む未来が迫っていること。にもかかわらず、のんきに構えている人が多くないか。危機感を覚えずにいられない。
3. 企業や個人のほか、「のんきさんへの警鐘」は日本の大学にも届けたい。一例だが、入試にも入学後にも数学を扱わない経済学部や経営学部なんて、お話にならない。データが全てを制する時代で、アルゴリズムの根幹となる数字の素養なしにどう戦うのだろう。理系でも文系でも重要さは変わらない。もう一つは哲学。AIと対峙する人間の尊厳とは何か、自由とは何か、脳を外部化した「私」とは何者か。テクノロジーが究極に進化する世界では、哲学の重みが確実に増すのは間違いない。

(参考:「日経ビジネス」2020年3月9日号)

経営者のための理念・哲学

悟りの先にあるものこそが大切

西村 恵信 (花園大学元学長)

1. 禅に「向上の一路」という言葉がありますが、悟りが究極ではない。悟りの先にあるものこそが大切なのです。それを表現しているのが、例えば道元が「本来の面目」と題している次の歌でしょう。「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて冷しかりけり」
2. 「春の花は美しいなあ」。これは自己中心的な物の見方です。その自己を滅却して眼の前の花が今の自分を創ってくれているということが、分かった時、このような歌が生まれるのです。「悟って喜んでいるやつがあるか。そこから先が大事だ、悟りの臭いを消せ」と古人は教えています。

(参考:「致知」:2020年5月号)

経営者のための危機管理

イノベーションのジレンマを超えて

クレイトン・クリステンセン (元ハーバードビジネススクール教授)

1. ハーバードビジネススクールのクレイトン・クリステンセン教授が1月23日、67歳で亡くなった。同教授は1997年に出版された「イノベーションのジレンマ」の著者として、つとに有名だ。イノベーションのジレンマとは、「確固たる地位を築いた企業が顧客のニーズに対応して、より高度な製品・サービスを提供しようとするほど、新興企業に足をすくわれる」ことだ。
2. イノベーションには、従来製品の改良を進める「持続的イノベーション」と、従来製品の価値を超えた新しい価値を提供し、従来製品を破壊してしまう「破壊的イノベーション」がある。既存の企業は持続的イノベーションで自社の事業を成り立たせているため、破壊的イノベーションに気が付かないか、気が付いても目をそらす傾向がある。クリステンセン教授は既存企業に対してその危険性を訴えた。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2020年3月14日号)

古典に学ぶ

人とは万物の靈長たる能力のある者

(解説) 人の禽獣きんじゆうに異なるところは、徳を納め、智ちを啓き、世に有益なる貢献をなし得るにいたって、初めてそれが真人と認められるのである。一言にしてこれを表せば、万物の靈長たる能力ある者についてのみ、初めて人たるの真価ありと言いたいのである。したがって、人の真価を極むる標準も、この意味について論せんとするのである。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)